

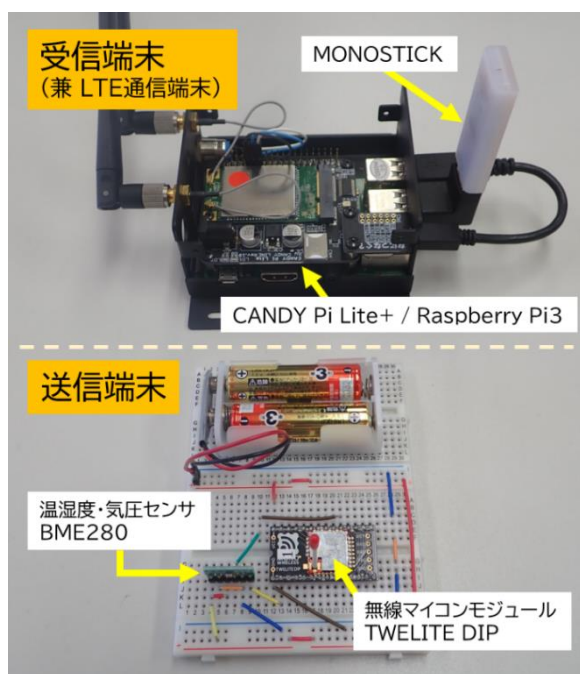
IoTを利用した遠隔地データの見える化

取組のきっかけ

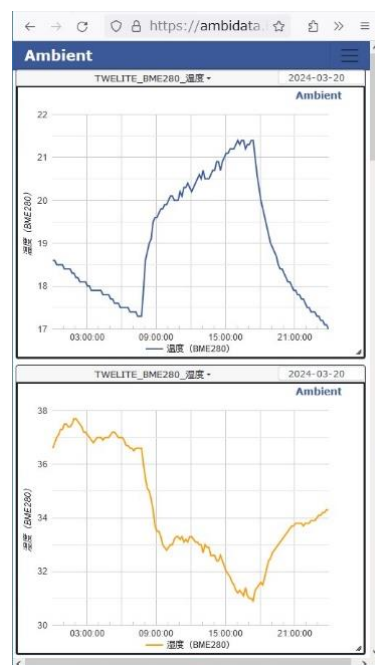
- ◆ 遠隔地のデータを取得し、手元の情報端末を利用してグラフで確認したい。
- ◆ センサの設置場所を容易に変更できるように、IoT端末を無線化したい。
- ◆ なるべく低コストで、遠隔地のデータを見える化したい。

成果の概要

- ◆ 市販品を組み合わせることでIoT端末を製作し、遠隔地の温湿度データを取得しました。
- ◆ IoT端末は、送信端末に無線マイコンモジュールを利用し、取得したセンサデータを受信端末へ送信する構成としました。
- ◆ 受信端末で受信した温湿度データは、LTE通信で無料のIoTデータ可視化サービスに送信してグラフ化し、遠隔地での見える化を実現しました。



受信端末(上)、送信端末(下)



温湿度グラフ(上:温度、下:湿度)

成果の活用方法

- ◆ 工場や事務所の温湿度モニタリングに利用できます。
- ◆ センサを変えることで、温湿度以外(照度や加速度など)のデータを収集できます。